

連載 人を育てるコーチング




第5回 思考力を 引き出す 質問

部下や後輩が何かに行き詰っている時、指導する立場としては、つい答えを与えたくなくなります。ですが、コーチングではすぐに答えは与えません。まずは一度、自分で考えてもらう。その時間をとることで、「わからないことがあったら聞けば解決」「指示通り動けばいい」人材ではなく、「自分なりにどうしたらいいか考えてみる」人材を育てることができます。

◆質問例◆ 「どうしたらいいと思う?」「〇〇さんはどう思う?」

- 後輩A 「患者さんが〇〇と言ってます。どうしたらいいでしょうか?」
- 先輩B 「Aさんはどうしたらいいと思う?」
- 後輩A 「後輩のCさんが、私の言うことをきいてくれないんです」
- 先輩B 「Cさんが、指示を聞いてくれないんだね。Aさんはどうしたらいいと思う?」

 問いかけ、相手の考えをきいた上で、足りないところがあればアドバイス等で補います。

今まで親や周りの言う通りに生きてきたタイプの人は、すぐに答えが出なかったり（考える習慣が身につけていない）自分の答えに自信がなく、「わかりません」で終わる場合もあります。




そのような場合も時間があるなら、根気強く「どんな答えでもいいよ」「一緒に考えよう」などと答えやすい場を作ったり、以下の《サジェスチョンスキル》を使いながら、自分で考える癖を身につけてもらいましょう。

代替案をさりげなく提示するスキル「サジェスチョンスキル」

部下後輩のアイデアがあと一步の場合、もっといい方法がある場合、「アドバイスを押しつけられた!」と感じさせない方法で、さりげなく代替案を提示することができます。「答えを押し付けられたのではない。自分で考え、自分で意思決定したのだ」と思ってもらえれば成功です。

◆質問例◆ 「…というのはどうだろう?」「～～については考えてみた?」「…という方法もあるみたいだけど、どう思う?」「～～についてはどうするのかな?」

- 後輩A 「後輩のCさんが、私の言うことをきいてくれないんです」
- 先輩B 「Cさんが、指示を聞いてくれないんだね。それは切ないね。…Aさんはどうしたらいいと思う?」
- 後輩A 「先輩から、Cさんに一言言って下さい!」
- 先輩B 「そうだね。でも、私からCさんに言うと、Aさんが告げ口したという形になっちゃうよ。そうすると、ますますCさんとの仲がきまずくなるかもしれない」
- 後輩A 「そうですけど…」
- 先輩B 「Cさんが、どうして言うときいてくれないか、考えてみた?」
- 後輩A 「…それがよくわからないんですよ…先月くらいからなんですよね」
- 先輩B 「そうなんだ。そこがわからないと、問題解決できないよね。…どうする?」
- 後輩A 「そうですね…。一度ちゃんと話しをきいてみた方がいいのかな…」
- 先輩B 「もし話をきいてみるんだったら、いつどこで話しあえばいいかな?」

 すぐにアドバイスするのではなく、どうしたらいい?こういうのは?と、自分の案をさりげなく伝えながら、最終的に相手に考えてもらいます。



札幌でコーチングを学ぶ  マイコーチングオフィス

〒060-0007 札幌市中央区北7条西11丁目3-1 ラ・セーラズ103

TEL 011-522-8664 携帯 090-7652-2554 URL <http://www.maicoach.com/> (コーチング 札幌 で検索) E-Mail maicoach@ybb.ne.jp

代表 中村 舞 北海道で、コーチングやコミュニケーションの研修、指導をおこなう。「部下指導のコーチング」「職場の人間関係コミュニケーション」「人に好かれる会話術」等。